

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1991. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 86

日本野鳥の会 埼玉県支部

おじさんのさえずり講座

野山や高原での野鳥のコーラスはすばらしいものです。その中に身を浸す幸福感は何とも言えないものがあります。その中で個々の野鳥の声が聞き分けられればいいと誰もが思うでしょう。野鳥のさえずりはよく分からない、難しい、といって敬遠されがちですが、さえずりが聞き分けられるようになりますと、また別の世界が広がります。私なりの野鳥のさえずり聞き分け方講座の始まりです。

さえずりを覚えるというとても大変そうですが、日本で見られる全部の野鳥というわけではありません。水鳥は、はずしてもよさそうですし、ほとんどさえずりを聞く機会のない冬鳥もはずれます。さらに、島の鳥や北海道、九州などに固有の鳥もとりあえずは関係なさそうです。すると、後は身近な留鳥と夏鳥だけになります。何となく、たいしたことはなさそうな気がしませんか。

Step 1

カセット、CDなどでも結構ですから、まず覚えやすい野鳥から覚えてゆきましょう。

カッコウ、ツツドリなどのホトトギス科の鳥やムシクイ類は、特徴があって聞き分けやすいもののひとつです。カッコウとホトトギスは、すぐに分かると思います。ホトトギス科の中で最も早く渡ってくるツツドリも竹筒をたたくような声で、一度聞いたら忘れられない鳥です。ジュウイチは「ジュウイチー、ジュウイチー」と鳴くとありますが、初めて実際に聞いた時は分からないかもしれません。かえって、かつて「慈悲心鳥」といわれたというように「ジヒシン、ジヒシン」と聞いたほうが、合っているか

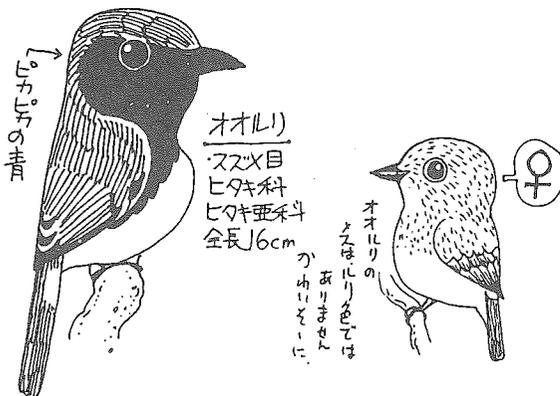
もしれません。ホトトギス科の鳥は、種類によって托卵する相手が決まっていますので、そこにどんな野鳥が住んでいるかも想像がつくようになります。たとえば、ツツドリは、センダイムシクイなどに托卵しますし、ジュウイチは、オオルリやコルリにという具合です。

また、ムシクイ類の代表といえば、どなたも御存じのウグイスですが、ムシクイの仲間は姿はそっくりですけど、さえずりは全然違います。「チオチオビー」のセンダイムシクイ。「ゼントリ、ゼントリ」のメボソムシクイ。「ヒツキー、ヒツキー」と鳥とは思えない声で鳴くエゾムシクイ。初めて聞いた時は分からないかもしれませんが、何回か聞いている内に見当がつくようになると思います。彼らは、標高によって住んでいる種類が違います。その鳥の住んでいる環境やどのくらいの標高のところにいるかなどが分かれば、どんな野鳥が鳴いているのか見当がつけやすくなります。

そしてやはり、野外に出て実際に耳を傾けてみましょう。レコードと違い、空気のうまい、すがすがしい緑の中での野鳥のさえずりは、気分をリフレッシュさせてくれます。でも、覚えただけなのに、全然聞き取れないかもしれません。大丈夫です。耳が慣れてくると、特徴のある声がかんかん聞き取れるようになるはずですよ。覚えつつもりにのびにすぐ忘れてしまう。そんなことは、気にしないで大丈夫です。忘れては覚え、忘れては覚えして行くうちにだんだん頭の中に定着していきますから、一度に覚えようと思わずに、少しずつ確実に行きましょう。

Step 2

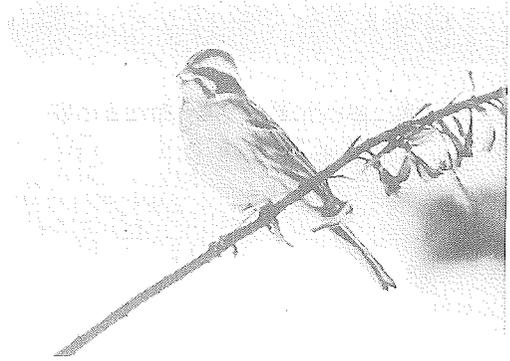
ホオジロ、シジュウカラ、コゲラ、イカルなど身近な所において、山の高い所まで分布してい



る野鳥のさえずりを覚えましょう。肝心なのはいかにベースになる(確実に分かる)野鳥の数を増やすかです。言い換えれば、自分なりのフィルターをいかに多く持つかということになります。

ホオジロやシジュウカラのさえずりは早春の野原では、どこでも聞かれるおなじみのものですが、節回しや声の質等をよく聞いておきます。特にホオジロの仲間はよく似ています。とりあえずは、さえずりの主がホオジロの仲間だというのが分かればいいのではないかと思います。またシジュウカラの仲間もよく似ていて難しいものですが、彼らは、冬に混群を作るので、その時に地鳴きをよく聞いておきます。さえずりとは違いますが、覚えておくと大いに役に立ちます。「チー」とメジロのような声で鳴くのはヒガラです。「ニーニー」もしくは、鼻声で「ピー」と鳴くのはヤマガラです。「ツッ」もしくは、ヤマガラとよく似た「ジャー、ジャー」はコガラです。また「ジュリー」もしくは「ブリリッ」と鳴くのはエナガです。ただカラ類はいろいろな声で鳴きますし、どれもよく似ているのでなかなか分かりにくいと思いますが忘れながら覚えていって下さい。

初夏の山を歩いていて、一番多く聞かれるのは、カラ類のさえずりです。「チチピン、チチピン」と軽快に鳴くのは、ヒガラです。たぶん最も聞く機会の多いさえずりだと思います。ヒガラとよく似ているのがシジュウカラです。「ツピーツピー」とヒガラよりもゆっくりと鳴きます。ただ、中には、変わり者もいて、ヒガラそっくりに鳴くシジュウカラもいますし、逆にシジュウカラかと思っていたらヒガラだったということもあります。細かいことは、気にしないほうがいいと思います。こういうのもいるんだなと思うくらいでいいでしょう。「ツンツンピー」もしくは「ピーツツツ、ピーツツツ」と鼻にかけて鳴くのはヤマガラです。コガラは、地鳴きの時はしわがれ声なのに、さえずりは、澄んだ柔らかい声で「ホヒー、ホヒー」と鳴きます。まるで森進一がさだまさしで歌っているようなものです。とにかく、カラ類をある程度聞き取れるようになりますと、どんな所に行っても大丈夫です。さて、これでもう、フィールドでさえずっている野鳥の半分以上はわかるようになったはずです。



ホオジロ (登坂久雄・八王子市)

Step 3

オオルリ、キビタキ、クロツグミという歌い手は姿もきれいですし、さえずりもすばらしいものです。

最初から、さえずりそのものを覚えようといっても無理があると思いますので、声の質や節回しを覚えたほうがいいでしょう。慣れてきますと、それぞれに特徴があって、チョット聞けばすぐに分かるようになります。でも彼らは、いろいろなさえずりをしますので、最初は、こういうふうには鳴いたらこの鳥だということを1フレーズでもいいですから覚えておくのがいいと思います。すると分からないさえずりでも、じっと聞いていると自分の知っているフレーズがチョロッと出たります。その時は思わずニヤリとしてしまいます。そして姿を見せた時、想像していたとおりの野鳥だと最高の気分です。

キビタキは「ピッコロロ、ピッコロロ」と軽快に鳴きますが、初めに「フィーチャー」という鋭い口笛の様な声で鳴くことが多いようです。オオルリは、ゆったりとした大きな歌を歌います。最後に「ジジ」と鳴くのが特徴です。クロツグミは、声量のある声で、いろいろな鳥のさえずりを混ぜて歌います。ずいぶん変わったウグイスだと言った友人がおりました。歌いだしに「キョッ、キョッ、キョッ」と入るのが特徴といえば特徴です。

いろいろと述べてきましたが、さえずりは、同じ種類でも個体によってずいぶん違うことがありますし、地方によって方言もあります。レコードは標準語だと思って、忘れることを恐れずに、少しずつ覚えていって下さい。

(藤原寛治)

1991年春のシギ・チドリ類調査報告

表 春のシギ・チドリ類調査結果

調査地	利根川 阪東大橋		入間川 下広瀬		荒川 秋ヶ瀬		荒川 道満	
	本庄市		狭山市		大宮市・浦和市		戸田市	
種名 調査年	'90年	'91年	'90年	'91年	'90年	'91年	'90年	'91年
コチドリ	3	1	4	1	1	1		4
イカルチドリ	2	3						
ソコチドリ		6			1			
ツミチドリ	2							
メダイチドリ								
ムナグロ		36			624	474		17
ダイゼン								
キョウジョシギ					2			
トウネン					1			
オグロシギ					1			
セイタカシギ								
ヒバリシギ								
オジロトウネン								
ウスラシギ						1		
ハマシギ	12	32	113	126	30	1		
エリマキシギ								
コアオアシギ							2	
アオアシギ								
クサシギ	1	1						
タカアシギ					16	4		
キアシギ				1	3			
イソシギ	9	6	3	6				1
ソリアシギ								
オオソリアシギ								
タシギ	1	1	2	1	11	43		
チュウシャクシギ					8	3		
タマシギ					2			
コシャクシギ					1			
90年春	14種	7種	4種		13種			
個体数	30		122		701			
91年春	13種	8種	5種		8種	3種		
個体数		86	135		529	22		

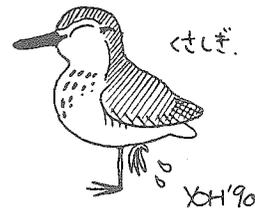
(注) 調査日は1990年、1991年とも4月29日

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

去る4月29日、春のシギ・チドリ類県内一斉調査が行なわれた。この日埼玉県は西からの低気圧が通過したため午前中は風雨が強かったが午後からは晴れた。調査は12名の会員のご協力により行われその結果は表の通りである。

戸田市道満では遊水池工事のため干潟が無くなり種数、個体数共少ない。本庄市阪東大橋では過去の調査では目立たなかったムナグロの個体数が注目される。

最後に風雨の中、調査に参加して下さった会員の皆様に心より感謝を表す。次の調査は9月15日の予定。(執筆 河辺達朗・小荷田行男)



研究部うらばなし

県支部研究部は男ばかりの6人世帯。メンバーは県支部第一の鳥博士の石井智さん、国内ばかりでなく海外も股にかけて鳥と昆虫と魚の写真を撮りまくっている登坂久雄さん、職場の林の鳥情報ばかり投稿しながら仕事している森本國夫さん、いにしえの文を自由自在に読みこなす榎本秀和さん、プロのソフト屋の河辺達朗さん、そしていつも北海道の根釧原野の森と湿原のことばかり考えているリーダーの小荷田です。

シギ・チの春と秋の調査、ガン・カモ・ハクチョウの成人の日の調査、秋のタカの渡り調査といつもカウンターを片手に数ばかり数えているのがわが研究部のメンバーの仕事。調査が終わったとき、それで安心できないのがこれまた研究部。データを調査員の方々から集めるのがこれまた大変。なにせ、埼玉県はひろいですから。データをやっと集め終っ

たら電卓片手にたし算のくりかえし。そして調査の最大の心配事は鳥の数の減り方。

研究部もおそまきながら情報化社会へ仲間入り、5年間行なった県内野鳥分布調査のデータの山をかかえ、途方に暮れたあげくパーソナル・コンピューターなるものを使いこなさざるを得なくなってしまった……。

20才台はひとりもおらず、未婚から子持ちまでの男世帯、女性メンバーを設立時から募集しても集まらない支部内唯一の部。

(小荷田行男)

ごめんなさいコーナー

『しらこぼと』6月号9ページのカットは、押川歳子さんの作品です。お名前を入れ忘れてしまいました。ごめんなさい。押川さん、これにこりずに、また楽しいカットを送って下さいね。

地鳴きコーナー

北秋津だより

水本礼子（所沢市）

小学校の春休み中は、3年生の息子と一緒に、連日、花見や映画に出かけて、すっかり遊びぐせがついてしまいました。

14日の日曜日はよい天気になったので、県民の森まで出かけてみました。ウグイスが、我々を歓迎して、上手に鳴いてくれました。山の斜面には、カタクリが惜しげもなく咲き乱れていました。

事務所のおじさんの話では、定峰の桜は、ウソの集団につぼみを食べられてしまい、山の上の方は、花が少ないのだそうです。きっと、おいしいのでしょうね。

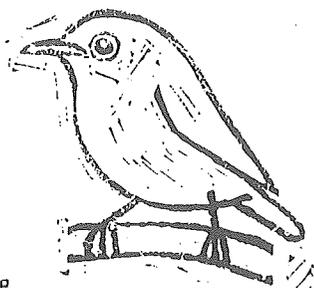
以上、北秋津からウソ便りでした（4月17日）。

大成功の戸隠探鳥会

登坂久雄（八王子市）

私の今回のこの探鳥会の目的は、アカショウビンではなくキビタキやオオルリでもない。で、その目的とは？ そう、私の婚約者をとびっきり素敵な探鳥会に連れて行ってバードウォッチングの楽しさ、素晴らしさを理解してもらおうことであった。

目的がバードウォッチングには初心者の彼女を洗脳することであるから、いきなり谷津干潟なんかに連れて行ったりしたら逆効果になりかねない。そんな時おあつらえむきの戸隠探鳥会があったので、ちゃっかり参加させていただくことになってしまった。



（高橋達也）

天の神様が私に味方して下さったのであらう、出発前の天気予報に反して二日間とも絶好の探鳥日和に恵まれた。

鳥のほうも夏鳥は一通り見られて上々の首尾。帰りのバスのなかで「探鳥会はどうだった？」と聞いたところ、「うーん、キビタキとオオルリとそれからえーと、えーと・・・」「アカゲラ？」「それじゃなくって、木の上で鳴いていたオオルリじゃない青い鳥。」「ああ、コルリだね！」「そうそう、キビタキとオオルリとコルリが見られてとっても良かったわ！」

よしよし、計画は大成功。アカショウビンはでなかったものの、皆さんが口々にアカショウビンのことをおっしゃって下さったので、まだ見ぬものへの憧れがかき立てられたようで、帰ってきてから電話をかけた時に「こんどはアカショウビンが見たいわ」と言うようにまでなったので、他の皆さんには申し訳ないが、私にとっては予想外の大成功となった。

と言うわけで、来年も戸隠探鳥会に参加させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

サハリンだより

平野伸明（サハリン）

前略 日本は初夏の便りかと思います。いかがお過ごしですか。

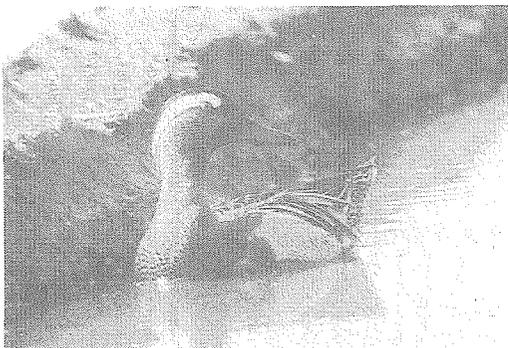
サハリンは今、やっと芽吹き始めたところです。なかなか、美しいですよ。わけのわからない鳥、かわった鳴き声の鳥、たくさんいます。

5月10日頃まで、湖にハクチョウがいました。一番遅便のやつでしょう。昨日はオジロワシが、上空3羽で、カッカカッと鳴いていました。川にはカワセミもいました。カワセミも、ここで見るとまた、趣きの深いものがあります。

良いところ、たくさん見つけておきます。ぜひ一度、遊びに来て下さいね。それでは、また。（5月28日）

野鳥情報

- ササゴイ ◇4月24日、戸田市道満釣り堀で1羽(高橋達也)。◇4月29日、狭山市の入間川、本富士見橋上流で1羽(三田長久)。◇5月12日、坂戸市浅羽野地区の高麗川で3羽(館 明良)。
- アマサギ ◇5月1日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で夏羽1羽。当地での初記録(高橋達也)。◇5月16日、本庄市の阪東大橋下流の中州のニセアカシアの枝で1羽(町田好一郎)。◇5月22日、坂戸市西坂戸の「新しき村」田んぼで夏羽2羽。自宅の窓からウォッチング(増尾節子)。
- ヨシガモ ◇4月30日、深谷市の上武大橋下流で♂♀各3羽(井上幹男)。
- シマアジ ◇4月30日、深谷市の上武大橋下流で♂1羽(井上幹男)。
- スズガモ ◇5月1日、戸田市の戸田橋付近の荒川で♀1羽(高橋達也)。
- キンクロハジロ ◇5月13日、幸手市外国府間の権現堂遊水池で♂3羽(秋間利夫)。
- ミコアイサ(終認) ◇3月26日、所沢市久米の松ヶ丘遊水池で♀1羽。昨年(2019)の12月9日から越冬していた(佐藤方博、遠藤 薫、牛島喜昭)。
- サシバ ◇3月30日午後3時頃、鴻巣市大間1丁目の自宅上空で3羽。北東へ飛び去る(榎本みち子、登志枝)。◇5月4日、江南町の大沼公園付近で1羽(田口浩司)。
- ヒクイナ ◇5月21日、幸手市木立で鳴き声を聞く(秋間利夫)。



シマアジ 5月5日 浦和市
大久保農耕地(海老原美夫)

- タマシギ ◇5月18日、幸手市戸島で鳴き声を聞く(秋間利夫)。
- イカルチドリ ◇5月7日、戸田市道満貯水池で1羽(高橋達也)。
- ムナグロ ◇4月9日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽(高橋達也)。
- キョウジョシギ ◇5月6日、羽生市の利根川、昭和橋下流で1羽(漆原正浩、内藤義雄)。
- ハマシギ ◇5月13日、戸田市道満貯水池で17羽(高橋達也)。
- キアシシギ ◇4月28日、狭山市の入間川、広瀬橋上流で1羽(三田長久)。◇5月3日、深谷市の上武大橋下流で3羽(井上幹男)。◇5月6日、羽生市の利根川、昭和橋下流で7羽(漆原正浩、内藤義雄)。◇5月10日、志木市の新河岸川、いろは橋付近で7羽(二村英克)。
- オグロシギ ◇4月30日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で27羽(登坂久雄)。
- ツバメチドリ ◇5月25日午前6時頃、本庄市の阪東大橋下流の中州で成鳥4羽。各々抱卵中。今年もまた繁殖が期待される(町田好一郎)。
- ハジロクロハラアジサシ ◇5月27日午前11時頃、本庄市の阪東大橋下流で1羽。黒頭巾で尾羽が真っ白。下雨履は真っ黒の夏羽。アジサシ6羽と共にヒラリヒラリ(町田好一郎)。◇5月28日、深谷市の上武大橋下流でコアジサシと共にムナグロが飛んでいるのかと思ったが、ビックリ!珍しいハジロクロハラアジサシだった。初めて24枚撮りフィルムをアツというまに終了。大満足(井上幹男)。
- アジサシ ◇5月9日、本庄市の阪東大橋下流の中州で4羽。コアジサシ200羽のコロニーの中で羽を休めていた(井上幹男)。
- コアジサシ ◇4月24日、戸田市道満貯水池で2羽(高橋達也)。
- シラコバト ◇5月1日、志木市の新河岸川宮戸橋水道橋欄干で3羽。(中司隆由)。
- カッコウ(初認) ◇5月14日、鴻巣市人形の自宅窓から見える、昨年と同じヒマラヤ杉のてっぺんに来て鳴く。昨年より1日早

い飛来です(内藤洋子)。◇5月17日午前5時頃熊谷市内で。『夢の中 郭公鳴いて目覚めけり』(鈴木忠雄)。◇5月17日、志木市の柳瀬川、栄橋上流で(二村英克)。◇5月18日、鴻巣市大間1丁目の昨年と同じ屋敷林で鳴き声。翌日、追いかけてくる2羽を見る(榎本秀和・みち子・菜摘野・秀穂)。◇5月20日、大宮市日進1丁目で(森本國夫)。◇5月20日、川口市安行で(藤原寛治)。◇5月21日、幸手市木立で(秋間利夫)。◇5月25日、浦和市原山の共済病院裏で(藤野富代)。◇6月3日、自衛隊熊谷基地内で(神山和一郎)。

ツツドリ ◇5月5日、寄居町の鉢形城跡で1羽。一声鳴いたとたんにカラスにモビングされ飛び去る(田口浩司)。

ホトトギス ◇5月15日、朝霞市の朝志ヶ丘の森で1羽。カラスに追われて飛んで行った(二村英克)。◇5月19日午前11時、所沢市の自宅上空を鳴きながら通過(佐藤方博)。◇5月20日午後11時54分、所沢市の自宅上空を鳴きながら通過(遠藤 薫)。

アオバズク ◇5月14日午後9時30分頃、鴻巣市栄町付近でさかんに鳴く(榎本秀和)。

アマツバメ ◇5月4日、寄居町の円良田湖上空で1羽(山口輝雄)。

ヤブサメ ◇4月29日、児玉町の間瀬湖周辺で1羽(田口浩司)。◇5月3日、飯能市荻生で1羽(海老原美夫)。

コヨシキリ ◇5月20日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽。当地では、3年続けてこの時期に観察されている(高橋達也)。◇5月23日、戸田市道満釣り堀横の林で1羽。さかんにさえずっていた(高橋達也)。

センダイムシクイ ◇4月23日、大宮市日進1丁目で1羽(森本國夫)。◇5月3日、



飯能市荻生で1羽(海老原美夫)。◇5月4日、江南町の大沼公園付近で鳴き声を聞く(田口浩司)。◇5月16日、深谷市の上武大橋下流の林で1羽(井上幹男)。

エゾムシクイ ◇5月4日、江南町の大沼公園付近で2羽(田口浩司)。

キビタキ ◇5月3日、飯能市荻生で1羽(海老原美夫)。◇5月4日、江南町の大沼公園付近で♂1羽(田口浩司)。◇5月9日、戸田市の戸田公園でも1羽。♂は、初めて(高橋達也)。◇5月13日午前7時浦和市南本町1丁目の自宅を出ようとドアを開けたら、近くの氷川神社の林から、さえずりが流れてきた(藤原寛治)。

オオルリ ◇5月3日、飯能市荻生で1羽(海老原美夫)。

サンコウチョウ ◇5月12日、所沢市の八国山將軍塚付近で鳴き声を聞く(佐藤方博)。

マヒワ ◇4月22日、所沢市久米の八国山で1羽(佐藤方博)。◇4月29日、児玉町の間瀬湖周辺で20羽(田口浩司)。

ウソ ◇4月29日、児玉町の間瀬湖周辺で鳴き声を聞く(田口浩司)。

コムクドリ ◇4月16日、戸田市道満釣り堀横の林でも1羽。29日には同所でも♀各1羽(高橋達也)。

表紙の写真

1990 ネイチャーフォトコンテスト入選作

セッカ(ヒタキ科ウグイス亜科)

毎年、ようやく夏休みがとれるころになると、もうどこに行っても鳥がいない。汗をふきながら、ボヤキの日々をむなしくおくらしている。

今年は心を入れ替えて、じっくりセッカで

も見てみようかなどと考えているが、私もアメニモマケル、カゼニモマケルほうなので、ナツノアツサニマケテ、ビールヲ飲ンデ今日モ寝テイル、イケナイ大人になってしまいそう。(海老原美夫・浦和市)

行事あんない



坂戸市・高麗川探鳥会

期日：7月13日（土）

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8:33 発急行→坂戸で
越生線乗換え8:49 発→川角8:58 着

解散：午後2時ごろ

担当：長谷部謙二、伊藤芳晴、宮内武昭、石
井幸男、佐久間博文

見どころ：親子連れでにぎわう夏の水辺。親
鳥のあとを追って、一生懸命に泳ぐカ
ルガモの幼鳥。お母さんの背中にちゃ
っかり乗ったカイツブリのヒナ。
水辺は今、ほほえましい風景でいっば
い。名物・カワセミ君の華麗なフィッ
シングもお楽しみに。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月14日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:00 発または寄居8:52
発に乗車

担当：諏訪隆久、岡安征也、林滋、町田好一
郎、逸見嶮、関口善孝、諏訪夕香子、
田口浩司、宮坂亨

見どころ：大きく育ったヒナたち。もう、立
派に飛べるし、エサだって自分でさが
せるけれど、どこか、あどけないスズ
メやヒヨドリ。みんな、今年生まれ、
大麻生生まれの子供たちです。その成
長ぶりを、どうか、あたたかく見守っ
てやって下さい。

本部事務局一覧

(1991年6月1日現在)

本部にご用の節は、各部の直通電話にかけると便利です。

専務理事 塚本洋三 (03-3406-7972)

常務理事 市田則孝 (03-3406-7972)

樋口広芳 (03-3486-4869)

品田穰 (非常勤)

事務局長 市田則孝 (兼務)

総務部 (03-3406-7289) 部長 森下強

猪沢則子 矢島英夫 高橋正二郎 阿部秀

子 山下照美 豊崎三津子 久田ますみ

新澤牧子

保護部 (03-3406-7179) 部長 中村滝男

小林豊 金子利子 原元奈津子 吉田新

臼井俊二 (ICBPへ派遣中)

普及部 (03-3406-7094) 部長 園部浩一郎

飯塚利一 築田貴司 日高哲二 京極徹

橋本治樹 大西修子 安西英明

企画事業部 (03-3406-7460) 部長 山崎唯司

松田道生 林山雅子 丹羽康勝 徳永歴亜

遠藤和代 酒井香織 矢口あさみ 伊藤順

子 沖山展子 辻井寿子

研究センター (03-3486-4869) 所長樋口広芳

金井裕 藤田剛 池田昌枝 成末昌枝 木

村健

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：7月21日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子

見どころ：再発見、身近な野鳥の魅力。1年でいちばん、鳥が少ない季節、目につくのはムクドリ、ヒヨドリなど、常連ばかり。なんだ、つまらない、なんて言わないで、こういう時こそ彼らを、穴のあくほどウォッチング。今まで気づかなかった何かが、きっと見つかるはずです。

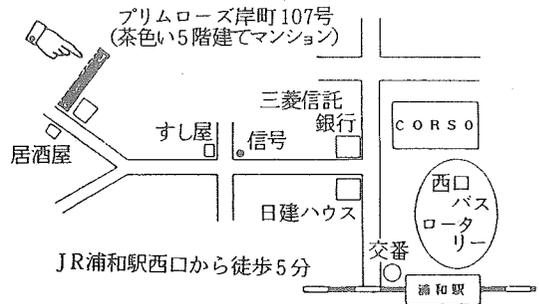
『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月27日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局（地図参照）

案内：探鳥会に参加するだけでは、もの足りない、もう一步、野鳥の会に近づいてみたい、とお思いの方、袋づめの会で支部のお手伝いをしてみませんか。

事務局は ここです！



野鳥写真クラブ定例会

とき：7月27日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：フィルムに納めた、大自然からあなたへのメッセージ。その大切なメッセージを、今度は、あなたからみんなへ、伝えて下さい。スライド、ビデオ、どちらでも結構です。

8月11日（日） 大麻生定例探鳥会

18日（日） 三室地区定例探鳥会

25日（日） 谷津干潟探鳥会

9月1日（日） リーダー研修会

雨の季節の探鳥会

— ちょっとアドバイス —

◇◇ 探鳥会は小雨決行 ◇◇

待ちにまった探鳥会、心ウキウキ、カーテンを開けたら……あ～あ、雨降り……ここであきらめるのは、まだ早い。探鳥会は小雨決行なのです。と言われても、はたして、この雨が小雨かどうか、判断がむずかしいところ。迷ったら、とにかく集合場所まで行ってみましょう。どんな雨でも嵐でも、担当リーダーは必ず（全員とは限りませんが）、集合場所で待機しています。そして最終的に、中止か決行かを決めるのも担当リーダーです。雨が多少激しくても、特に危険がなく、鳥も見られそうだとリーダーが判断した場合、探鳥

会は開催されます。

◇◇ 探鳥会の途中、突然土砂降り！ ◇◇

朝は晴れていたのに、一天にわかにかき曇り… これからの季節にはよくあること。たとえ夏でも、雨に濡れると、体が冷えきってしまうことがあります。特に山地の場合、また平地でも、風が強い時や、帰りの電車が強冷房車だった時は、テキメン。下手をすると、風邪をひいてしまいます。折りたたみ傘やカッパ、それにポリ袋に入れたタオルを、いつもザックにしおばせておきましょう。観察用具のケアもお忘れなく。突然の雨には、双眼鏡カバー（1個200円、支部で扱っています）があると便利。ぬれたままにしておくと、レンズにカビが生えるので、注意しましょう。

行事報告

2月16日(土) 群馬県 裏妙義

人 16人 天気 晴 鳥 オシドリ マガモ
カルガモ オナガガモ トビ オオタカ ハ
イタカ ノスリ イヌワシ キジバト ヤマ
セミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハク
セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ
カワガラス イワヒバリ ルリビタキ ジョ
ウビタキ ツグミ エナガ ヤマガラ シジ
ュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ アトリ カワラヒワ ウソ ベニマ
シコ イカル シメ ニュウナイスズメ ス
ズメ ムクドリ カケス ハシブトガラス

(41種) スタート直後、信越線の線路上にイ
ワヒバ리를発見して、まず、びっくり。碓氷
川沿いの林にヤマセミ発見。またまたびっ
くり。今日は何だかツイてるみたい、と胸をお
どらせ国民宿舎へ向う。アトリの群れにウソ
の群れ、イカル、アカゲラ、ニュウナイスズ
メと次々に現われる鳥たちを楽しむうちに、
道の両側には妙義の奇峰がせまってくる。こ
こでついに、大物登場。強風にさからって、
たくましく飛ぶ姿、岩の頂きにたたずむ姿等
々、いろいろ見せてくれて、今回のイヌワシ
はなかなかサービスのいいヤツだった。

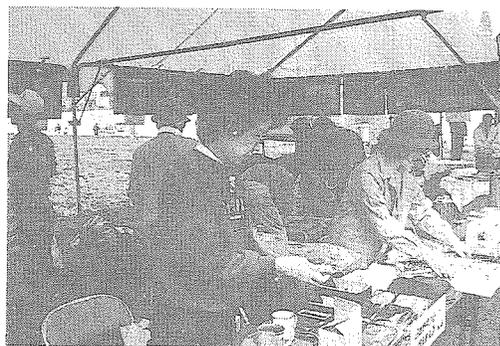
(小林みどり)

4月14日(日) リサイクルカーニバル

ボランティア 伊藤芳晴、海老原美夫、遠藤
薫、小野博之、小野光明、草間和子、楠見邦
博、楠見文子、佐久間博文、佐藤方博、立岩
恒久、登坂久雄、内藤義雄、野中康治、長谷
部謙二、福井恒人、三田長久、山本文、山本
進、山本ゆう(20人) 25万人もの人出の中で、
写真パネルの展示・バードウォッチンググッ
ズの販売・入会案内やワンポイントバードウ
ォッチングなど、親子連れで駆けつけてくれ
た人たちや地元の高校生会員たちが大活躍。

ご苦労さまでした。

(海老原美夫)



ただいま準備中

4月21日(日) 浦和市 三室地区

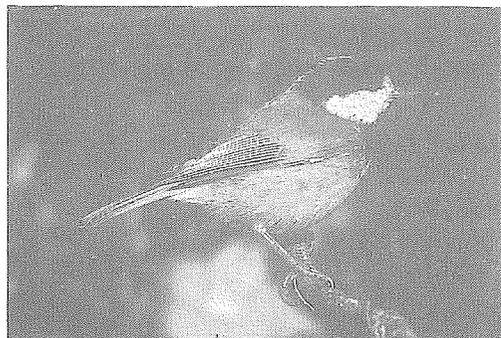
人 72人 天気 快晴 鳥 カワウ コサギ
カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ
チョウゲンボウ コジュケイ コチドリ タ
カブシギ イソシギ タシギ キジバト コ
ゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセ
キレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ
ツグミ シジュウカラ ホオジロ アオジ
カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシ
ボンガラス ハシブトガラス (31種) 快晴、
春爛漫、青空がいっぱいに広がって、地上に
は花が咲き、木々の緑が映え、渡り鳥が非常に
きれいな一日であった。参加者も、家族連れ
や、子供連れ等、楽しいメンバーであった。
中でも、カワラヒワの濃い黄緑色の姿には、
岩槻より参加のSさんから歓声が上がり、一
同初心者にかえって感動をした。(楠見邦博)

4月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア 飯島正代、海老原教子、海老
原美夫、河辺達朗、楠見文子、杉本秀樹、墨
江光子、中村治、馬場昇、渡辺敦(10人)

4月27日(土) 写真クラブ定例会

参加者 15人 **作品発表** 3人 新発売ビデオ「バーディング」のPRのために本部普及部から飯塚・築田両氏が訪れて試写。支部探鳥会の見慣れた顔をブラウン管に見る、一味違ったにぎやかな会でした。(海老原美夫)



ヤマガラ (海老原美夫・浦和市)

5月3日(金)~12日(日) 狭山市 野鳥写真・カービング展とチャリティーバザー **ボランティア** 石崎琢也(山岸昭治さんのカービングや会員たちの写真パネルの展示とチャリティーバザー、企画から会場担当まで全部一人で。大変ご苦労さまでした。)

5月5日(日) 本庄市 阪東大橋

人 45人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ ゴイサギ アマサギ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ トビ ノスリ キジ コチドリ イカルチドリ シロチドリ ハマシギ クサシギ キアシシギ イソシギ オグロシギ チュウシャクシギ コアジサシ キジバト ヒメアマツバメ アマツバメ カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス オオヨシキリ セッカ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (46種) 日曜日、こどもの日、ゴールデンウィーク!! 初参加の方や、子供連れのファミリーなど沢山のバードウォッチャーが阪東大橋を訪れた。お天気に恵まれ、鳥たちも沢山出てくれた。コアジサシやオオヨシキリの夏鳥、アマツバメの乱舞、それにここでは珍客のオグロシギ

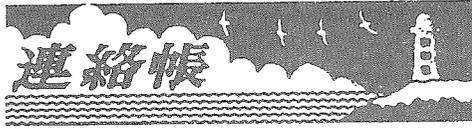
やチュウシャクシギまで……。ツバメチドリはお出かけだったらしく、鳥合わせを終わってしばらくしてからキョウジョシギを連れて駆けつけてくれた。でも三重丸の一日だった。(町田好一郎)

5月6日(月、休) 千葉県習志野市谷津干潟

人 40人 **天気** 晴 **鳥** カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ チョウゲンボウ バン コチドリ メダイチドリ ダイセン キョウジョシギ トウネン ハマシギ サルハマシギ オバシギ コオバシギ ミユビシギ キアシシギ オオソリハシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ ユリカモメ セグロカモメ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 谷津干潟のスターたちが勢ぞろい。真赤なサルハマシギはスペシャルゲスト。オオソリハシギの群れの羽音を存分に楽しんだ。最後にチョウゲンボウが出て、シギ・チが飛び去った後で鳥合わせ。(杉本秀樹)

5月12日(日) 川越市 西川越

人 29人 **天気** 曇 **鳥** カイツブリ ゴイサギ ササゴイ アマサギ ダイサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ バン コチドリ イカルチドリ キアシシギ イソシギ キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 今にも泣き出しそうな空を気にしながら河原へ降りていった。小さな水たまりにシギ・チを見ているのを意識したのか? 停空からの急降下をじっくり観察できた。初めて参加したNさん親子も、ベテランも探鳥会では久しぶりに感激を味わった。(乗田実)



田村照治顧問が逝去されました

長年教職にあり、退職後は野鳥の会の活動に情熱を傾けて、埼玉県支部設立時の副支部長をつとめ、その後も顧問として支部をご指導下さっていた田村照治さんが、6月13日(木)午後3時30分、永眠されました。

田村先生の自然保護活動に対する長年の献身は高く評価され、1989年5月14日に開催された全国野鳥保護のつどい式典では、鳥類保護連盟会長褒状が授与されました。

心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、長年のご指導に厚くお礼申し上げます。

ネチャーフォトコンテスト1991 作品募集

作品対象 ①野鳥部門 県内に生息する野鳥
②その他の部門 県内の風景・昆虫・植物など(両部門とも、特別な背景でなければ県外の撮影でもかまいません)

募集期限 9月10日まで

応募方法 キャビネくらいプリントに、鳥種名またはタイトル、撮影データと200字くらいの短文を添え、スライド原版またはネガとともに、支部事務局まで。

ご注意 巢のまわりで細工するなど、マナーに反して撮影されたと思われる写真は、一切受けつけません。

入選作は、今年も11月に予定している展覧会で展示するほか、『しらこぼと』の表紙など、さまざまな支部活動に1年間使用させていただきます。1年たちましたら、ネガなどはお返しします。

自然保護活動の展開に、映像の持つ力は大きなものがあります。あなたのすばらしい作品を、1年間貸してください。

7月の土曜日当番(2時~6時)

- 6日 森本國夫 箕輪左知子
- 13日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 20日 松井昭吾 菱沼一充
- 27日 袋づめの会(1時から)

ご寄付と支部賛助会費

青山絃一 1,000円、大沢和子 1,250円、大武昭雄賛助会費 8,000円、馬場友里江賛助会費 8,000円と寄付 2,000円、福井恒人 1,500円、松井昭子 1,010円、山内二郎 700円。ありがとうございました。(50音順、敬称略)

会員数は

6月1日現在 1,687人です

活動報告

- 4月27日 本部普及部職員飯塚・築田両氏がビデオ『バーディング』普及のため来所。
- 5月11日 アズ熊谷バードウィーク展、搬入展示作業。
- 5月19日 同展、撤去搬出作業。
- 5月20日 本部理事会に出席(海老原)。
- 5月26日 役員会議(司会:海老原美夫、7~9月行事、2年度決算・3年度予算案など)
- 5月27日 野鳥重要生息地調査結果11ヵ所について本部に報告。



5月号の小林みどりさんの、森林資源を大切にしたいという編集後記が大きな反響を呼んだ。白岡町の築田貴司さんからは、「ハンカチがBest。手ふき用と鼻かみ用を用意して使っている」とのはがきが届いた。それに対し、みどりさんの分泌量は、ハンカチでは間に合わないとか、洗濯の水や電気資源はどうなるのだとか、編集部ではいろんな議論がとびかっている。(海老原美夫)

『しらこぼと』1991年7月号(第86号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町 107号 郵便振替東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

めずらしくも おまけの

行事あんない

ワイワイガヤガヤ
VTRを楽しむ会

日時 7月28日(日) 午後2時～4時
場所 支部事務局 108号室
(袋つめの会の案内をご覧ください)
担当 中島康夫 楠見邦博
内容 あなたの見そなったテレビ番組を見ることが出来るかもしれません。自作のビデオも歓迎。その場合は1巻10分間くらいに編集してお持ち下さい。
ビデオを見たあとは、日本の夏の夕べを楽しむ状況に、全面的になだれ込んでいこうではないかというタクラミがミエミエの企画です。

ハードソンチーム募集中
野鳥を科学する基金積み立てのための(日本野鳥の会ハードソン1991)が11月3日に開催されます。現在参加チームの申し込みを受け付けています。

日本野鳥の会の会員4名が1チームで、そのうちキャプテン1名、記録係1名です。ほかにチーム責任者をつけることも、ドライバーなどの支援者を用意することも自由です。

公式チームは獲得した個人スポンサーからの募金のうち、10%または15%を支部に寄付することもできます。参加締め切りは7月25日です。埼玉県支部の公式チームとして参加したい人はいませんか。

オープンチームは、ハードソン事務局に登録するだけで、どなたでも参加できます。参加締め切りは8月1日です。

くわしくは、支部事務局またはハードソン事務局03-3406-7460松田道生まで。